

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人社団一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家 1階		
所在地	浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	令和元年7月15日	評価結果市町村受理日	令和元年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2277101131-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>隣接している協力病院との連携により、適宜相談ができます。利用者の方が日々ゆったりと過ごせるよう努めています。周囲には神社やゴルフ場があり、毎日大きな木を心行くまで眺めていることが出来る静かな環境にあります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>高い空は清々しさが身体に満ち、木々がサヤサヤと揺れる葉音には耳が癒され、ベランダの菜園のプチトマトに手を伸ばすリスの姿の可愛さに目が緩むetc. …避暑地のようなロケーションに包まれ毎日を過ごすことができる事業所です。新人には母体病院が年間でおこなう研修が役に立ち、業務全般を覚えて壁にぶつかる頃には管理者の傾聴と助言に加えてベテラン職員が日々お手本を示し、「いいところを褒められ」「任せてもらえ」職員が育っています。更に、年数回のリーダー会議(管理者、主任、リーダー3名)を開催、役割を明確にして若きリーダーを育成しようとの試みもあり、次のステージへの一手が打たれています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて「気持ちのわかる親切」「清潔」「和やかな雰囲気」を職員全員で復唱し仕事に入っていくようにし、実践していくようにしている。また、職員研修では、理念についての知識を深める教育も行っている。	理念は玄関に掲示するとともに朝礼で唱和して、浸透を図っています。また理念に基づき事業所で作成した目標においては、「清潔って具体的には？」「気持ちのわかる親切ってどういうことなの？」と問いかける機会もあり、職員の意識に働きかけることにつながっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域との交流については、課題に挙げつつ結果が得られていない事が現状である。毎年行われる、地域のお祭りへの参加をより地域に密着した形に出来ないか模索中である。	広い敷地内に母体病院、保育園、デイサービスなどが林立している環境も相まって地域との関係構築は難しい面があるものの、敬老会のおまんじゅうを地域の菓子店で求めたり、散歩がてらコンビニエンスストアに立ち寄りたりと、地域資源を有効活用しています。	地域との付き合いの一環として、外の保育園へ一度挨拶に出向き、子どもたちとの交流が広がることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単独としては行っていないが、法人全体として行っている。地域の民生委員や包括支援センター職員への情報伝達により理解を深めて頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況や、職員の異動や研修等報告し、現状のサービスについて意見交換を行っている。また、ご家族からの支援の申し出等頂き新しい取り組みへのステップになるよう活かして行きたい。	地域、行政、家族が顔を揃え、滞りなく運営推進会議を隔月開催しています。また家族メンバーが参加後に職員を手伝ってくださったことを契機に、同様な形で「少しでも多くの家族に現場体験してもらおう」ことを視野にいれた運営推進会議出席への誘いがけを始めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二か月に一回の運営推進会議にて現状を聞いて頂いているにとどまっている。防災関係については、周知して頂くようはたらかけはしている。	西山地区でも独居高齢者が増え、地域包括支援センターからの質問や相談も比例しており、今後益々連携が必要と認識しています。また本部のボランティア担当が中心となり、浜松市の支え合いポイント利用も活発で、当事業所でもギターやフルート、習字やマジックを活用しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の周知については、法人内の研修に参加し、理解し、毎月、身体拘束の有無の確認を行っている。	昨年度の法改正については指針を整備し、「身体拘束廃止委員会」を設置のうえ運営推進会議内で実施しています。年2回以上の研修、新入社員研修を規定通りおこなうとともに、メンタル分野の研修機会も厚くして、未然に防ぐよう努めています。	現状は全員正社員のため必要はありませんが、今後を見据え、パートタイマー職の新採の教育プログラムを早急に準備することを期待します(新入社員研修は正社員のためのため)。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待については、基本的なことは研修で学んでいる。すべての職員が理解を深めていけるよう常日頃から話題にし防止に努めていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修にて勉強するに留まり、活用支援については、法人内の担当者が行っている。知識として学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人内相談課にて十分な説明のもと、不安や疑問に関しては、管理者が直接説明する機会を設けており、理解や納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画立案時や面会時にご家族へ要望ご意見等伺う。運営推進会議にて報告し、周知して頂くようにしている。	1ヶ月の様子を写真入りで家族に届け、遠方在住のキーパーソンにも飲ばれています。また食事時に面会があれば、「食事介助を手伝ってもらえますか」とお願いすることもあり、「もう40分も経ったんですね。いつも大変ですね」と苦労を分かち合う言葉がこぼれ、和合に結ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に設置された意見箱のほか、メールにて意見提案ができる。人事課には個別相談窓口が設けられている。	中心となる人材の育成を鑑み、年数回リーダー会議(管理者、主任、リーダー3名)を開催しています。一人ずつ「教育」「計画作成」「電子化」と役割を明確にし、自負のある気づきと指導ができるようになってほしいとしていて、総じて教育・指導が行き届いていることがフロアに滲んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、個々の努力等を管理者が把握し代表者へ報告している。職場環境の整備についても、職員の意見を出来る限り反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には全員が参加している。外部研修においても、可能な限り参加できるよう考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際の交流にとどまっている。同業者間での施設訪問の話もあるが、実際には行っていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の相談課にて相談員が家族より相談を受けている本人の困っていることや、要望についてはご家族から聞き取る事が多いが要望に沿った必要なサービスが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人内の相談課にて相談を受け要望や不安を聞き取り、安心してサービスの利用が出来るよう支援している。必要であれば、管理者が話を聴き今後の関係づくりに役立てている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の相談課担当者と自宅や施設へ訪問し、ご家族との話やご本人との話の中で、グループホームでの支援を必要とするのか情報交換を行い、他サービスについても検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自立度に合わせた生活の提供を考え、行動に制限をせず、待つことを基本にその人に合った生活ができ、信頼関係を築けるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者ご本人に必要と思われることは、ご家族へ説明し、協力いただいている。今後もご本人の気持ちや支援内容をきちんと理解して頂きながら、良い関係を保てるよう努めていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族周囲の理解や協力を必要とするが、出来る限り関係の継続を支援していきたい	「それは済んでいるよ」「洗わなくていいものなんだよ」と遮ることはせず、「待って」「見守り」、やりたい人には「やった」感の残る支援があり、誰かに指示されなくても、「お茶を注ぐ」「食器を並べる」「席を確認する」といったことが一糸乱れずできていく様子に、暮らしの安寧が伝わります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の意思を大切に、伝えることが困難な方でも自然な交流が出来るよう寄り添い安心した生活を保てるよう支援します。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し他施設や在宅へ変更された後においても、必要な場合は、情報提供や相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護側の都合や施設の時間に捉われることなくできる限り、ご本人の生活習慣を大切にしていけるようスタッフ間での情報交換を常に行い利用者の意向に添えるよう努めている	「紙パンツはいやだ」という要望に布パンツに替えたところ失敗もみられ、「どうしましょうか」と本人とも話し合い、「日中は布、夕方から紙」という折衷案に落ち着いた例もあり、面倒でも「気持ちよく過ごせる時間が少しでもあるように応えたい」との姿勢がケアに満ちています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、サービス利用の経過等は法人内の相談員からの記録や入居時の聞き取り及びご家族からの情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録をもとに継続した心身の状態の把握を行うとともに、バイタルチェック、表情、会話等の中で総合的に判断し、見守りの中安心した生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画立案時には、スタッフ間でモニタリングを行い検討をしている。また、ケア担当者会議にて医師、看護師、栄養士、相談員、介護士が話し合いをしている。	職員一人ひとりが利用者のことを考えた業務となるように、居室担当者が介護計画書の原案をつくるという仕組みが浸透している安心感があります。また視点をもって利用者に関わることもつながり、カンファレンスでは新人であっても建設的な意見がでるとの効用がみられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のカンファレンスにより、気づいたことを検討し、決まった事柄を個別ファイルにまとめ介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを基本とし、周囲の協力が得られる範囲でニーズの対応を考えていきたい		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は大切なことと分かってはいるが現在のところ、移動図書利用や近隣のお店等である。協働というにはまだほど遠いのが現実である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同意のもと西山病院医師がかかりつけ医となっている。月2回の往診のほか、緊急時にも対応してくれている。耳鼻科、眼科、整形外科へはご家族動向で受診して頂いている。	全員が敷地内にある母体病院に変更のうえ、月2回の訪問診療を受けています。専門医への付き添いは家族ですが、協力医が情報提供書をしたためてくださるおかげで、先方の医師からの回答や指示が書面で事業所に届き、医療情報が確かな形で「ケア記録」に残されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣の協力医療機関の看護師に必要時、連絡をし、適宜相談アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の担当者との会議において、情報交換が行われたり、その都度の報告や相談を行っている。また、法人内の相談課により他機関との相談や情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りは行っていない事を説明している。現在出来ることをその都度、ご家族へ伝え今後起こりうる事柄を想定しながら、法人相談室とも連携をとり支援をしている。	「看取りはおこなっていない」ことは契約時に家族と合意形成できています。母体病院、系列の特別養護老人ホームと、先行きの選択肢があり、またそれらを法人相談室で執り行っただきという仕組みが充実していることから、「看取りがない」ことがデメリットにはなっていません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は隣接する病院から看護師が直ちに出来る事になっているが、急変時の訓練を定期的に行ってはいない。協力病院の協力をお願いし訓練を行えるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災担当者の参加や年3回の防災訓練。入居者の避難訓練も行っている。夜間想定訓練も行っている。	日中2回、夜間想定1回、計3回の訓練が本日で年間実施されていて、そこに便乗する形で事業所の防災訓練がおこなわれています。本体の夜勤者に駆けつけてもらえるも、「地域と共に～」という点には欠けるため自治会長に立ち合ってもらおうなどの工夫に取り組んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの心身の状態やその時の状況を把握した言葉掛けを行っている。利用者の生活リズムに合わせたさりげない誘導、少し待ってみる等配慮した対応を行っている。	記録もイニシャルトークが慣行され、また居室のノックや入浴のバスタオル使用、「できない」ことへの声掛けの配慮といった基本的なことが、ベテランから新人へとバトンが渡され、職員が体得していることをフロアの随所で視認出来ます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の認知機能を把握し、その人の出来る力を大切にしている。表情、言葉の端端から感じとり、思いを汲み取ることが出来るよう寄り添い待つ事を基本としたケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を職員の都合で過ごすことなく利用者のペースに合わせた生活が出来るよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度の理容師の訪問やご家族の協力により行きつけの美容院への外出。自分で好みの服を選びその人に合ったおしゃれが出来るよう支援している。身支度を整えることが困難な場合はさりげなく援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から、食事の準備配膳の手伝いは行ってくれている。月1回の手作り昼食は出来る限り行うようにしている。利用者の好みの物をメニューに入れ調理工程も楽しめるよう工夫している。	食事は毎食母体病院の厨房からカートで運ばれてきていて、利用者が中心となり、まるで一つの家族のように配膳をおこなっています。また月1回手作り昼食の日があり、おでんや味噌煮込みうどんなど、利用者と職員とでワイワイ、ガヤガヤ作ることも愉しみつつ堪能しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態である。嚥下に合わせ、刻みやトロミ、お粥の提供をし、アレルギーの方には別の食材を提供し、どの方にも同じように、栄養が摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の協力歯科医院の衛生士による口腔ケアの指導を受けている。義歯の方は曜日を決め「入れ歯洗浄剤」にて消毒を行っている。ご自分では困難な方はスタッフが誘導し、介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し身体機能の状態によりパットの使用やトイレ誘導を行っている。夜間、トイレへ行くことが困難な場合はポータブルレの使用をしている。自立に向けた支援を行っている。	平均介護度1.6で自立の人が多く、ケア記録としては気づいた場合に時間のみ記録へ残っています。また普段の食事にもデザートによく出ていますが、便秘が厳しい人は家族が更にヨーグルトを持ち込んでくださっていて、家族と事業所で力を合わせて健康維持に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の献立に乳製品があり、また排泄状況の記録や腹部の張り等を確認しながら水分を勧めたり、ヨーグルトや乳酸菌飲料を摂って頂いている。主治医と相談して内服薬の調節も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが気持ち良く入浴して頂く為に無理強いはいしていない。個々の身体機能に合わせて入浴できるよう浴槽は2種類を使用している。	週2日を清潔の日安とし、入浴はマンツーマンでの傾聴の機会ともなっています。一般浴が難しくなっても座位がとれればミスト浴や機械浴も使用できるよう、2つのユニットで異なる浴槽を備えています。また柚子や菖蒲などの変わり湯もおこなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりその日のリズム、精神状態を観察し、日中の活動を促したり、休息を取って頂いたりしている。必要であれば医師の指示のもと内服薬の利用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要時、薬局へ相談。薬の内容等確認する事が出来る。内服薬の中止、内服後の状態等記録し症状の変化を見極めるよう努めている。変化があった場合は医師に相談し、薬の変更をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活では、本人の出来る力、意志を大切にし、ご本人の訴えを聴き出来る範囲の支援をしているが、現在の所、十分とは言えない為検討が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員体制の変更により、年2回の外出が現在行われていない。短時間でも良いので工夫し以前のように外出できるようにしていきたい	初詣は徒歩5分の神社へ、また桜の季節は敷地内で花見とする等、近年は遠出をしなくなっています。それでも立ち上がりりと足踏みの下肢筋力訓練を日課とし、ロケーションを活かした外気浴、季節の良い時期は散歩と小さな実践を続けています。	介護度も低い状況にあるため、喫茶店や百貨店などのミニ外出が実現できたら、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には所持して頂いている。少し不安のある方にはお預かりし、必要時所要して頂くようにしている。混乱をまねき安い方には、状況に合わせた対応をし買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用されている方や、知人との手紙のやり取りを行っている方もあり、ご家族や知人からの電話はとりつき協力をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保つように努めている 2階は高天井があり暖かい日差しが心地よく、1階はテラスがあり、少しの菜園や花が季節を感じさせてくれ、また木々の緑が気持ち良い場所となっている。	1ユニットが2ユニット分のスペースがある広々とした空間では、図書コーナーで本のページを繰る人、テレビとソファのあるエリアでは仲間が選ぶチャンネルを受け入れ、「歯を磨かなくちゃ」と個室に戻る人…、それぞれが思うように動けていて、居場所をもっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆と過ごすソファやテレビがある場所や数名で作業をしたり、雑誌が出来るテーブル所々に置いた観葉植物がさりげない目隠しとなっており、一人でくつろげる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱が起きない程度に使い慣れた家具を置いて頂いている。精神状態や身体機能に合わせてタンスの配置をしたりとご本人にとって居心地の良い場所となるよう工夫している。	ベッドとチェストのほか、布団も定期クリーニングを含み事業所で準備しています。塗り絵が細目だったり刺し子作品が並ぶ部屋の主は「手先が器用なんだなあ」ということが伝わり、また転倒防止を検討してベッドを除き簀子の上に布団を敷く居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンス、ドアは軽く作られており、トイレが解るよう表示してある。シンクの高さは使いやすい高さとなっている。 2階は車椅子の生活がしやすい様、広く作られている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人社団一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家 2階		
所在地	浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	令和元年7月15日	評価結果市町村受理日	令和元年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2277101131-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>隣接している協力病院との連携により、適宜相談ができます。利用者の方が日々ゆったりと過ごせるよう努めています。周囲には神社やゴルフ場があり、毎日大きな木を心行くまで眺めていることが出来る静かな環境にあります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>高い空は清々しさが身体に満ち、木々がサヤサヤと揺れる葉音には耳が癒され、ベランダの菜園のプチトマトに手を伸ばすリスの姿の可愛さに目が緩むetc. …避暑地のようなロケーションに包まれ毎日を過ごすことができる事業所です。新人には母体病院が年間でおこなう研修が役に立ち、業務全般を覚えて壁にぶつかる頃には管理者の傾聴と助言に加えてベテラン職員が日々お手本を示し、「いいところを褒められ」「任せてもらえ」職員が育っています。更に、年数回のリーダー会議(管理者、主任、リーダー3名)を開催、役割を明確にして若きリーダーを育成しようとの試みもあり、次のステージへの一手が打たれています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて「気持ちのわかる親切」「清潔」「和やかな雰囲気」を職員全員で復唱し仕事に入っていくようにし、実践していくようにしている。また、職員研修では、理念についての知識を深める教育も行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域との交流については、課題に挙げつつ結果が得られていない事が現状である。毎年行われる、地域のお祭りへの参加をより地域に密着した形に出来ないか模索中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単独としては行っていないが、法人全体として行っている。地域の民生委員や包括支援センター職員への情報伝達により理解を深めて頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況や、職員の異動や研修等報告し、現状のサービスについて意見交換を行っている。また、ご家族からの支援の申し出等頂き新しい取り組みへのステップになるよう活かして行きたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二か月に一回の運営推進会議にて現状を聞いて頂いているにとどまっている。防災関係については、周知して頂くようはたらきかけはしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の周知については、法人内の研修に参加し、理解し、毎月、身体拘束の有無の確認を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待については、基本的なことは研修で学んでいる。すべての職員が理解を深めていけるよう常日頃から話題にし防止に努めていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修にて勉強するに留まり、活用支援については、法人内の担当者が行っている。知識として学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人内相談課にて十分な説明のもと、不安や疑問に関しては、管理者が直接説明する機会を設けており、理解や納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画立案時や面会時にご家族へ要望ご意見等伺う。運営推進会議にて報告し、周知して頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に設置された意見箱のほか、メールにて意見提案ができる。人事課には個別相談窓口が設けられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、個々の努力等を管理者が把握し代表者へ報告している。職場環境の整備についても、職員の意見を出来る限り反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には全員が参加している。外部研修においても、可能な限り参加できるよう考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際の交流にとどまっている。同業者間での施設訪問の話もあるが、実際には行っていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の相談課にて相談員が家族より相談を受けている本人の困っていることや、要望についてはご家族から聞き取る事が多いが要望に沿った必要なサービスが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人内の相談課にて相談を受け要望や不安を聞き取り、安心してサービスの利用が出来るよう支援している。必要であれば、管理者が話を聴き今後の関係づくりに役立てている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の相談課担当者と自宅や施設へ訪問し、ご家族との話やご本人との話の中で、グループホームでの支援を必要とするのか情報交換を行い、他サービスについても検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自立度に合わせた生活の提供を考え、行動に制限をせず、待つことを基本にその人に合った生活ができ、信頼関係を築けるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者ご本人に必要と思われることは、ご家族へ説明し、協力いただいている。今後もご本人の気持ちや支援内容をきちんと理解して頂きながら、良い関係を保てるよう努めていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族周囲の理解や協力を必要とするが、出来る限り関係の継続を支援していきたい		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の意思を大切に、伝えることが困難な方でも自然な交流が出来るよう寄り添い安心した生活を保てるよう支援します。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し他施設や在宅へ変更された後においても、必要な場合は、情報提供や相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護側の都合や施設の時間に捉われることなくできる限り、ご本人の生活習慣を大切にしていけるようスタッフ間での情報交換を常に行い利用者の意向に添えるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、サービス利用の経過等は法人内の相談員からの記録や入居時の聞き取り及びご家族からの情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録をもとに継続した心身の状態の把握を行うとともに、バイタルチェック、表情、会話等の中で総合的に判断し、見守りの中安心して生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画立案時には、スタッフ間でモニタリングを行い検討をしている。また、ケア担当者会議にて医師、看護師、栄養士、相談員、介護士が話し合いをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のカンファレンスにより、気づいたことを検討し、決まった事柄を個別ファイルにまとめ介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを基本とし、周囲の協力が得られる範囲でニーズの対応を考えていきたい		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は大切なことと分かってはいるが現在のところ、移動図書利用や近隣のお店等である。協働というにはまだほど遠いのが現実である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同意のもと西山病院医師がかかりつけ医となっている。月2回の往診のほか、緊急時にも対応してくれている。耳鼻科、眼科、整形外科へはご家族動向で受診して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣の協力医療機関の看護師に必要時、連絡をし、適宜相談アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の担当者と会議において、情報交換が行われたり、その都度の報告や相談を行っている。また、法人内の相談課により他機関との相談や情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りは行っていない事を説明している。現在出来ることをその都度、ご家族へ伝え今後起こりうる事柄を想定しながら、法人相談室とも連携をとり支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は隣接する病院から看護師が直ちに出来る事になっているが、急変時の訓練を定期的に行ってはいない。協力病院の協力をお願いし訓練を行えるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災担当者の参加や年3回の防災訓練。入居者の避難訓練も行っている。夜間想定訓練も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの心身の状態やその時の状況を把握した言葉掛けを行っている。利用者の生活リズムに合わせたさりげない誘導、少し待ってみる等配慮した対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の認知機能を把握し、その人の出来る力を大切にしている。表情、言葉の端端から感じとり、思いを汲み取ることが出来るよう寄り添い待つ事を基本としたケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を職員の都合で過ごすことなく利用者のペースに合わせた生活が出来るよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度の理容師の訪問やご家族の協力により行きつけの美容院への外出。自分で好みの服を選びその人に合ったおしゃれが出来るよう支援している。身支度を整えることが困難な場合はさりげなく援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から、食事の準備配膳の手伝いは行ってくれている。月1回の手作り昼食は出来る限り行うようにしている。利用者の好みの物をメニューに入れ調理工程も楽しめるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態である。嚥下に合わせ、刻みやトロミ、お粥の提供をし、アレルギーの方には別の食材を提供し、どの方にも同じように、栄養が摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の協力歯科医院の衛生士による口腔ケアの指導を受けている。義歯の方は曜日を決め「入れ歯洗浄剤」にて消毒を行っている。ご自分では困難な方はスタッフが誘導し、介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し身体機能の状態によりパットの使用やトイレ誘導を行っている。夜間、トイレへ行くことが困難な場合はポータブルレの使用をしている。自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の献立に乳製品があり、また排泄状況の記録や腹部の張り等を確認しながら水分を勧めたり、ヨーグルトや乳酸菌飲料を摂って頂いている。主治医と相談して内服薬の調節も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが気持ち良く入浴して頂く為に無理強いはしていない。個々の身体機能に合わせて入浴できるよう浴槽は2種類を使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりその日のリズム、精神状態を観察し、日中の活動を促したり、休息を取って頂いたりしている。必要であれば医師の指示のもと内服薬の利用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要時、薬局へ相談。薬の内容等確認する事が出来る。内服薬の中止、内服後の状態等記録し症状の変化を見極めるよう努めている。変化があった場合は医師に相談し、薬の変更をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活では、本人の出来る力、意志を大切に、ご本人の訴えを聴き出来る範囲の支援をしているが、現在の所、十分とは言えない為検討が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員体制の変更により、年2回の外出が現在行われていない。短時間でも良いので工夫し以前のように外出できるようにしていきたい		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には所持して頂いている。少し不安のある方にはお預かりし、必要時所要して頂くようにしている。混乱をまねき安い方には、状況に合わせた対応をし買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用されている方や、知人との手紙のやり取りを行っている方もあり、ご家族や知人からの電話はとりつき協力をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保つように努めている 2階は高天井があり暖かい日差しが心地よく、1階はテラスがあり、少しの菜園や花が季節を感じさせてくれ、また木々の緑が気持ち良い場所となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆と過ごすソファやテレビがある場所や数名で作業をしたり、雑誌が出来るテーブル所々に置いた観葉植物がさりげない目隠しとなっており、一人でくつろげる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱が起きない程度に使い慣れた家具を置いて頂いている。精神状態や身体機能に合わせてタンスの配置をしたりとご本人にとって居心地の良い場所となるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンス、ドアは軽く作られており、トイレが解るよう表示してある。シンクの高さは使いやすい高さとなっている。 2階は車椅子の生活がしやすい様、広く作られている。		